

# 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

## 1 理念・目的

|   |
|---|
| <b>(理念・目的等)</b>   |
| <b>★現状(評価)</b>  |
| <p>・現状</p> <p>言語は、個人の思考や感情を伝達する手段であるとともに、さまざまな国の生活と文化を表すものである。つまり外国語を学ぶということは、その言語圏の人々の心を知り、歴史や文化、政治経済などへの理解を深めることでもある。国際的視野を身につけるうえで、外国語は欠くことのできない道具なのである。</p> <p>明治大学の外国語教育は、こうした考えに基づいてき、各学部共通の選択外国語科目、コミュニケーション能力向上のための外国語会話集中講座。さらに、ネイティブ・スピーカーを中心とする教育スタッフを充実させ、視聴覚センター、ラボ教室、AV教室といった教育施設を拡充するなど、外国語会話教育の指導体制を多面的に整えている。このことについては大学ホームページに掲載し、周知をしている(<a href="http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/kyoik/kyoik001.html">http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/kyoik/kyoik001.html</a>)。</p> <p>そして、大学に設置されている全学共通の学部間共通外国語科目による外国語教育の充実とその円滑な運営を図るため、教務部委員会の下に専門部会として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置いている。</p> |
| <b>★改善方策</b>  |
| <p>・問題点に対する改善方策</p>   |

## 1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

|  |
|--|
| <b>(大学・学部における特色ある取組)</b>   |
| <b>★現状(評価)</b>   |
| <p>・現状</p> <p>学部間共通外国語教育運営委員会は、「『個』を強くする大学」という本学の教育理念に基づき、国際感覚を持った「個」を育成するための、会話科目を中心とした外国語科目を設置している。2004年度より名称を「学部間共通外国語教育」と変更し、学部を超えて横断的に履修できる外国語科目を設置している。</p> <p>英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話に加え、ロシア語・スペイン語・ギリシア語・ラテン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語など、学部には設置されていない多彩な外国語科目を設置し、学生に多様な学習機会を提供している。クラスはレベル別であり、主にネイティブスピーカーを中心とした講師による授業が展開されており、実践的な会話力・語学力を修得できる。</p> <p>留学生対象の日本語科目も設置されている。また、英・独・仏の3語種については「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」を開講しており、留学・就職の際指標となる資格取得を目標とした科目の充実を図っている。</p> |
| <p>・長所</p> <p>学部横断で設置されている科目であるため、学生に多様な学習機会を提供することができている。例えば、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別で、現在のレベル及び到達目標をシラバスにて明記しており、学生はレベルや到達目標に合わせて科目を選択できる。講師陣はネイティブスピーカーを中心に配置しているほか、AV設備の充実にも力を入れており、学生が自然な外国語に触れる機会を多く与えられる環境を整えている。</p>   |
| <p>・問題点</p> <p>現在は会話科目を中心に科目を設置しているが、学生・時代のニーズにあった形での科目・科目数・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。また、学習効果測定の方法についても常に見直しをしていくことが必要である。</p>   |
| <b>★改善方策</b>   |

- ・問題点に対する改善方策  
開講科目の充実・履修ルールについて、委員会または委員会の下でのワーキンググループにおいて、常時検討し、履修者や社会のニーズに合わせた柔軟に対応ができるようにする。

## 2 教育研究組織

### (教育研究組織)

#### ★現状(評価)

##### ・現状

運営委員会は、学長が委嘱する次の委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 副教務部長
- (3) 各学部教授会から推薦された英語科目担当の専任教員各1名
- (4) 各学部教授会から推薦された外国語(英語を除く。)科目担当の専任教員のうちから各学部各1名又は2名

運営委員会は、必要に応じて分科委員会を置くことができる。

必要に応じて「授業改善委員会」を設置している。

この分科会は各語種代表で構成される。

##### ・問題点

運営委員会委員に学部間共通外国語科目を担当している教員が少ないため、授業の実情など現場の意見が反映されにくい。

#### ★改善方策

##### ・問題点に対する改善方策

授業改善委員会(分科委員会)では、授業実態等の把握につとめ、問題点を正確に把握するようにしている。

## 3 教育内容・方法等

### (1)教育課程等

#### (教育課程)

##### ★目的・目標

学部間共通外国語科目は各学部に設置されている外国語科目をサポートしつつ、さらにより多面的な語学能力の向上させることを目的とする。

##### ★現状(評価)

##### ・現状

「学部間共通外国語科目」について、会話科目を中心に科目を開設しているが、学部に設置されていないラテン語・ギリシア語・アラビア語等も設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。

学部横断で設置されている科目であるため、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別に開設されており、学生は実力にあったレベルの授業を受講することで、高い学習効果を得ることができる。

ネイティブスピーカーを中心とした講師陣を配置しており、学生のレベルや到達目標に合わせた科目を設置している。2007年度は138クラスが開講された。

長期休暇中の特別講座として、夏季休暇中には「集中講座」が英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種が開講されるほか、協定校(カナダ・ヨーク大、イギリス・シェフィールド大、ケンブリッジ大)への短期語学研修留学も実施される。春期休暇中には英会話の合宿の集中講座が開講されている。

資格試験への対応として「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」の3科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキルを修得できる科目を設置している。

これらの科目は学部によっては卒業要件単位に算入することが可能である。

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・長所<br/>学部横断で設置されている科目であるため、学生に多様な学習機会を提供している。<br/>集中講座についてはネイティブスピーカーを講師とし、少人数で集中的に行われる授業により、短期間で学習効果をあげることが可能である。</li> <li>・問題点<br/>現在会話科目を中心に科目を設置しているが、設置科目について、社会のニーズにあった形での科目・科目数・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。</li> </ul> |
| <p>★改善方策</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点に対する改善方策<br/>開講科目の内容の見直し・充実・履修ルールの改定等について、委員会または委員会の下の授業改善委員会(分科委員会)において、常時検討し、学生や社会のニーズに合わせた柔軟に対応ができるようにする。</li> </ul>   |
| <p><b>(高・大の接続)</b></p>   |
| <p>★目的・目標</p>  |
| <p>★現状(評価)</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状<br/>付属校である明治高校に設置されている「自主選択講座」に中国語講師派遣の依頼を受け、週1回2コマ開講している。</li> <li>・長所<br/>高等教育への導入としての外国語教育を提供している。</li> </ul>  |
| <p>★改善方策</p>   |
| <p><b>(授業形態と単位の関係)</b></p>   |
| <p>★目的・目標</p>  |
| <p>★現状(評価)</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>現状<br/>本学は2004年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語科目も大学のルールに則り半期1単位とする授業を開講している。長期休暇中に開講する集中講座については、授業時間を60時間確保し2単位を与えている。</li> <li>・長所<br/>集中講座については授業時間数の確保を厳格に行っている。</li> </ul>   |
| <p>★改善方策</p>   |
| <p><b>(単位認定等)</b></p>  |
| <p>★目的・目標</p>  |
| <p>★現状(評価)</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状</li> </ul>  |

夏期に実施される協定校(カナダ・ヨーク大,イギリス・シェフィールド大,ケンブリッジ大)への短期語学研修留学では,レベル別のクラスを開設している。ここで取得した単位は,学部によっては卒業要件単位として算入することを可能としている。

また,春期に開講される英会話春期集中講座では協定校であるカナダ・ヨーク大学から教育実習生を招いて授業を展開しており,こちらで取得した単位も学部によって卒業要件単位とすることができる。

・長所

長期休暇中に開講される研修留学・及び集中講座は通常の授業開講期に,所属学部の履修状況等によって外国語科目を履修できない学生に対して学習機会を提供できる。少人数クラス・短期間での学習により,高い教育効果が期待できる。

・問題点

常により多くの学習機会の提供,及び,海外の他の協定校との学生交流において緊密な連携をとれるよう,検討する必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

現在のカリキュラムは堅持した上で,今後の発展性及び方向性について検討に着手する。

(開設授業科目における専・兼比率等)

★目的・目標

★現状(評価)

・現状

2007年度に開講された138クラスのうち,専任教員が担当したのは7クラス。学部間共通外国語は会話科目を中心に設置しているため,ネイティブ・スピーカーである外国人兼任講師が授業の大半を担当している。

・長所

ネイティブスピーカーによる自然な外国語に触れる機会を作ることで,高い教育効果が期待される。

・問題点

兼任講師陣に対し本学の教育理念のさらなる徹底が必要。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

今後もネイティブスピーカーを中心とした講師陣の充実を図る。  
教育理念の徹底について,現在は新年度始めに担当講師を対象に説明会を開催しているが,この会合の内容を充実させることで対応する。

(社会人学生,外国人留学生等への教育上の配慮)

★目的・目標

★現状(評価)

・現状

外国人留学生を対象に日本語科目を3科目設置している。

・長所

2004年度より設置科目の内容を「オーラル」「文章」「総合」とし,科目内容をわかりやすくした。

・問題点

本学の留学生はアジア圏からの留学生が多いため,英語未修者が存在する。彼らへの英語教育について対応を検

討することが必要となってきた。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

留学生教育の取り扱いについては各学部にて決定している。学部間共通外国語運営委員会としても各学部と協力の上、全学的なサポート体制が取れるような対応をしたい。

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)

★目的・目標

★現状(評価)

・現状

全学的に実施されている授業評価アンケートに参加している。

・長所

アンケートは統計的に処理され、各教員にフィードバックされるため、授業における改善点を教員各自が把握することができる。

・問題点

施行後4年を経過しているため、アンケート内容について見直しが必要である部分がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

全学的な委員会の下でアンケート質問項目・内容について再点検する。

(厳格な成績評価の仕組み)

★目的・目標

★現状(評価)

・現状

履修については単位習得した科目については再履修を認めておらず、適切な単位付与ができるように上限を設定している。それぞれの科目の習得上限単位数の周知については「学部間共通外国語科目配当表」をシラバスにて公開している。

成績評価基準については2004年度より全学的にGPA制度を導入しており、厳格な評価がなされている。また、会話科目という特性上、成績評価があいまいになることを防止するため、シラバス上にて成績評価基準を具体的に公表することを推進している。

履修者が成績評価に疑義のある場合は、教員へ理由の説明を求めるための「成績照会票」を試験的に運用しており、評価に対する公正なフィードバックを行っている。

・長所

大学の定める評価方法を遵守し、適切な修得上限単位数を設定、運用している。

成績評価について、学生が公正なフィードバックを受けられる仕組みを整えている。

・問題点

会話科目については当該科目試験以外に客観的な効果を数値化することが困難なため、より適切な効果測定の方法の検討が必要。

「成績照会票」は試験運用中なので、過去の運用成績の見直し含め正式運用のための手続きをとることが必要。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学習効果測定方法について、講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」のもとに小委員会を立ち上げ、検討の端緒とする。  
「クレームシート」の運用について、本委員会の親委員会である教務部委員会にて検討依頼をし、正式運用とする。

(履修指導)

★目的・目標

★現状(評価)

・現状

履修指導について、学部間共通外国語は取得単位数の扱いが各学部によって異なるため、各学部事務室による履修指導が行われているほか、独自のシラバス他学部シラバスにも取扱いについて掲載し、周知を図っている。  
科目等履修生・聴講生の受講も認めている。大学院生は「聴講生」として受講することを認めており、シラバスにて周知している。

・長所

学生は各所属学部にて適切な履修指導を受けることができる。

・問題点

学部によって取得単位科目を学部卒業要件単位に振替または参入することを認めているが、取扱が学部により異なるため、学生が混乱してしまうことがある。

★改善方策

## (授業形態と授業方法の関係)

### (教育改善への組織的な取り組み)

#### ★目的・目標

#### ★現状(評価)

##### ・現状

教育指導方法の改善促進について新年度始めに担当講師に対する履修ルールの説明会を開催しており、本学の教育理念に基づいた教育が実施されるよう周知している。また同時に教員同士の交流の場を設け、授業改善について意見交換をするようにしている。

シラバスについては授業計画のほか、履修ルールや成績評価基準について明示をしており、学生に対し積極的に情報開示を行う媒体として活用している。

学生による授業評価の活用方法について全学的に実施されている授業評価アンケートのフィードバックを行っているが、改善への取り組みは各教員にゆだねられている。また、夏期・春期に開講される集中講座についてアンケートを実施し、委員会の場で公表するほか、改善項目が明確になった点は次回講座に反映させている。

##### ・長所

改善点が判明した場合のフィードバックのための仕組みは完成している。

##### ・問題点

改善項目の調査については常にPDCAのサイクルを活用していく。

#### ★改善方策

##### ・問題点に対する改善方策

教員が今まで以上に授業改善を意識するような場を設定するため、教員間の意見交換ができる機会を増やす。アンケート質問内容の見直しを行い、学生の要望が回答に適切に反映されるようにする。問合せ先の周知徹底を図るとともに、窓口で適切な履修指導ができるよう、各学部と協力した体制作りをする。

#### ★目的・目標

#### ★現状(評価)

##### ・現状

授業形態について。会話科目が中心となるため、グレードⅠ(初級)は40名、グレードⅡ(中級)は25名、グレードⅢ(上級)は15名という履修人数制限を設けている。

マルチメディアを活用した教育の導入状況について本学の教室にはパソコン・ビデオ・プロジェクタ・カセット・ビデオデッキなどのプレゼン設備が標準装備されており、「生きた外国語」習得のために各教員が工夫を凝らしたマルチメディア教材を活用した授業を展開している。

##### ・長所

レベル別に適切な人数で授業が展開できるため、より高い教育効果が期待できる。

教育機会を公平に提供するため、履修希望者の多い和泉地区開講の英会話科目(英会話Ⅰ)について、事前抽選を行い、履修者を決定している。

##### ・問題点

初級の履修希望者が多く、希望の科目を履修できない学生がいる。また、中・上級と継続的に学習を進める学生が少ないため、科目数及び開講地区について、適切な配置を検討する必要がある。

#### ★改善方策

学生の履修希望を的確に把握し、各語種各科目の開講科目数について毎年見直しをすることとする。

##### ・問題点に対する改善方策

開講科目数について、毎年委員会で審議することとする。

## 4 学生の受け入れ

|   |
|---|
| (科目等履修生・聴講生等)   |
| ★現状(評価)   |
| ・現状<br>学部間共通外国語は、学部にも所属する科目等履修生・聴講生の受講を認めている。<br>・長所<br>科目等履修生や聴講生などの非正規生にも多様な外国語学習の機会を与えている。 |
| ★改善方策   |
|   |

## 5 教員組織

|   |
|---|
| ★目的・目標  |
|   |
| (教員組織)  |
| ★現状(評価)   |
| ・現状<br>会話科目が中心となることから、2007年度開講科目の大半をネイティブスピーカーの外国人兼任講師が担当している。<br>・長所<br>ネイティブスピーカーによる授業は、高い教育効果が期待できる。<br>・問題点<br>それぞれの語種を取りまとめる専任教員と兼任教員とのコミュニケーションをとる機会が少ないため、教育現場の状況を委員会として把握できるまで時間がかかってしまう。 |
| ★改善方策   |
| ・問題点に対する改善方策<br>運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会の委員は全て専任教員である。授業担当者と運営委員会委員の交流の場を設定し、問題点は逐次対応できるよう連携を深める。   |
| (教育研究支援職員)  |
| ★現状(評価)   |
| ・現状<br>英会話春期集中講座は合宿形式で講義を行うが、TAを配置し、授業補助に当たらせている。<br>・長所<br>教育支援だけでなく、学生の先輩役として与える教育効果は大きい。   |
| ★改善方策   |
|   |
| (教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続)  |
| ★現状(評価)   |
| ・現状<br>外国人教員の採用に当たっては、綿密な授業計画に基づき、運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会  |

にて審議承認された後、各学部教授会及び学部長会の議を経て採用が決定する。

・長所

大学の教員任用基準に基づき採用がされるので、立案に基づいた公正な採用計画が可能であり、質の高い教員を採用することができる。

★改善方策

## 12 管理運営

★目的・目標

(教授会, 研究科委員会)

○委員会の役割とその活動の適切性

★現状(評価)

・現状

運営委員会は、委員長が招集する。

運営委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

・長所

最低年4回開催し、綿密な授業計画を立てている。また、授業運営の現状認識に努めており、問題点等には迅速に対応している。

・問題点

ルーティンの事項については十分な議論がなされず、例年とおりの対応となってしまうことがある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

ルーティンであっても問題点の発見に努め、よりよい授業運営が可能な環境及び教育環境の提供を目指す。

(委員長の権限と選任手続)

○委員長の選任手続の適切性, 妥当性

★現状(評価)

・現状

運営委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

委員長は、会議の議長となり、その運営の任に当たる。

副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方策

|  |
|--|
|  |
| <b>(意思決定)</b>  |
| ○意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性  |
| <b>★現状(評価)</b>   |
| <p>・現状</p> <p>運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、意思決定を行っている。</p> <p>(1) 学部間共通外国語教育の計画、立案に関する事項</p> <p>(2) 学部間共通外国語教育の実施に関する運営上の事項</p> <p>(3) 科目担当者の予備的選考に関する事項</p> <p>(4) 教科内容に関する事項</p> <p>(5) その他学部間共通外国語教育に関して運営委員会が必要と認めた事項</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p> |
| <b>★改善方策</b>   |
| ・問題点に対する改善方策   |

#### 14 自己点検・評価

|   |
|---|
| <b>★目的・目標</b>   |
|   |
| <b>(自己点検・評価)</b>  |
| <p>○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性</p> <p>○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性</p>   |
| <b>★現状(評価)</b>  |
| <p>・現状</p> <p>全教員対象の授業評価アンケートを実施するほか、夏期・春期に開講される集中講座において学生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」にて報告され、次回講座開講時の改善点として引き継いでいる。</p> <p>・長所</p> <p>学生のニーズを直ちに適切に把握することができるため、改善点を把握しやすい</p> <p>・問題点</p> <p>アンケート質問項目について、常に見直しをし、逐次改善を図ることが必要。</p> |
| <b>★改善方策</b>  |
| <p>・問題点に対する改善方策</p> <p>アンケート項目について、適切な質問項目の設定等、講座実施前にその都度点検を行う。</p>   |